山折り

福祉文化通信

2020.1.4 Vol. 90

～ Well-being への道～

●発行者／広報委員会
徳田 真彦・稲田 泰紀
●作　成／長瀬 さやか

日本福祉文化学会事務局　〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町４-４-13 南星ビル701 Tel／Fax：06-4963-3410 E-mail：fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp
ホームページ：http:// fukushibunka.hippy.jp/

NAGOYA
名古屋

第30回日本福祉文化学会全国大会 東海大会 大会総括

――報告：東海大会実行委員長　中嶌 洋（中京大学）

第30回 日本福祉文化学会
全国大会・東海大会
2019（令和元）年
11月30日（土）～12月1日（日）
中京大学 名古屋キャンパス
センタービル（0号館）6階

天候に恵まれ、尾張徳川家が統治したここ名古屋の地で、記念すべき第30回日本福祉文化学会全国大会・東海大会（於 中京大学名古屋キャンパス）が盛大に挙行されました。近年稀に見る165名という参加者数の多さで、熱気に満ちた内容の濃い大会となりました。

2019年2月にスタートした大会実行委員会準備会立上げから、9ヶ月間、約30人の大会実行委員会がまさに〝ONE TEAM〟になって、「名古屋発、福祉文化元年を築く～今こそ、人を育てる、アートを創る～」という大会テーマの下、大会当日にも全国的に有名なお二方による講演をはじめ、多彩なプログラムによって参加者の皆様のニーズを刺激したのではないでしょうか。

〝人材育成とアート〟をキーワードとした本大会では、前者では、高等教育機関における一流アスリートを指導された湯浅景元氏のお話を初日の目玉とし、一方、会社・企業における人材育成ではカレー屋Ｃｏｃｏ壱番屋創業者の宗次徳二氏に講演をお願いし、2日目の目玉としました。また、アートについては、オープニングミュージック、ランチコンサート、交流分科会、懇親会などにおいて、歌や踊りによって体感できたのではないかと思います。その他、パステルアート、パッチワーク、アロマコーナー、ワークショップなど、体験学習できる機会が多かったのも本大会の特徴と言えるでしょう。

本大会への参加者数増を一過性のものにすることなく、本大会を契機に、参加者の皆様方が、ブロック活動、地域実践、交流活動、福祉文化研究など、各々、新たな第一歩を歩まれることを願っております。次回大会は沖縄で開催されます。是非、皆様、次年度は沖縄の地で再会し、1年間の成果や課題を語り合いましょう。本大会にご理解・ご支援下さったすべての皆様に感謝申し上げます。

古屋市の市章「八」（尾張徳川家使用の印）にも示唆されています。この過程で学ぶべきことがたくさんあり、古屋市の市章「八」

福祉文化実践学会賞は「長尾 玲子」さんが受賞しました

報告・選考委員長　永山 誠

2019年度福祉文化実践学会賞は、2012年から活動を始め現在も継続している長尾玲子さんの岩手県釜石市の女性を支援するパッチワーク教室に決定。

12月1日、東海大会で授与式がありました。選考理由の説明があり、会長からの賞状、賞金授与後、長尾さんは記念スピーチを行い、「布をつむぐことが被災者のこころを癒し暮らしに張りと力を生み出す」と穏やかな語りで伝えられ感動を呼びました。

II 現場セミナー2

報告：タナカアリフミ

コース「山手アベニューツアー」

《蓄音機コンサート＋名作映画シネトーク》90年前の蓄音機＝EMG Mark Ⅳ（1932年イギリス製）によるSP盤の視聴と埋もれた戦前のヒッチコック作《海外特派員―40米》の魅力を紹介するシネトーク。古の名曲や名画を通して、往時に想いを馳せたり、人と語り合う時間を持つことは、回想法の手段として大いに有効です。福祉文化の異色企画としての静かな花を一輪。参加者14名。

III 現場セミナー3

報告：小山 ゆり

コース「ふれあい音楽療法」

オープニング演奏で音楽療法を体験した後、『音楽療法とは？』4人の音楽療法士による症例を報告。音楽を介して、心豊かに、その人らしく生活される支援の一つとして、理解を深めていただいた。日本福祉文化学会で、音楽療法が取り上げられ、嬉しいという声あり、現場での音楽活用の質問あり、音楽療法の関心の高さが感じられた。

IV 現場セミナー4

報告：中根 篤

コース「PD Cafe 名古屋」

発症初期から軽度にかけて
パーキンソン病のための運動教室

去る12月1日、暖かな秋晴れの空の下、中京大学名古屋キャンパスにて現場セミナーが開催され18名の参加者と共に運動教室を実施しました。現場セミナーでは PDCafe の取り組みについて参加者と共に学び合い、参加したメンバーからは「これからもっと広がってほしい」などの声があった。根治療法が確立されるまで動き続けられる体づくりを目指して当事者と共により良いコミュニティを目指していきます。

V 現場セミナー5

報告：山下 一郎

コース「施設長ディスカッション」

明日へつなぐ、豊かな文化をこの地域・この施設で―と題して、暮らすことの本質…生きることの価値を…より豊かな文化を発信すべく集まった施設運営者の4名。2020年～未来に向けて、その展望を、思いを…質疑応答も含め、熱く語り合う場となった。成果として、2020年各施設を見学・視察する『ディスカッションツアー』が決まった！

VI 市民公開講座 講演

報告：平田 厚

―私のカレーなる人生―

講師：ＣｏＣｏ壱番屋元会長／
ＮＰＯ法人イエロー・エンジェル理事長
宗次 徳二氏

「名古屋発 福祉文化元年」の大会テーマに賛同していただき、「市民公開講座 ―私のカレーなる人生―」の講演が実現できました。

冒頭、「福祉には縁の遠い私が、なぜかここに登場して…」と語られながら、なんとご自身の幼少期の天涯孤独な生い立ちを熱く語られました。孤児院の生活、そして家族・家庭のあり方を問いつつ、極貧生活から、70歳を迎えたこれまでの人生から勝ち得た真の自立をさらに語り続けられました。苦労した時代があったからこそ今を生きると、力強く訴えられました。笑いの中にも何とも感動の連続でした。これまでの生き方から、接客重視「真心のサービス」事業の発想と展開、お客中心のアイディア、そして「人づくりのコツ」を伝授していただきました。

後継者にバトンタッチした現在、社会貢献活動にフル回転。まさしく「華麗なる人生」とも置き換えられた「福祉文化講演」に感謝します。

2019年度 総会報告

報告：日本福祉文化学会事務局長
岡村 ヒロ子

2019年度の総会は東海大会二日目の12月1日（日）、9時から開催された。冒頭の石田易司会長からの挨拶には東海大会が躍動感にあふれ、盛り上がりをみせていることへの奨励の言葉が盛り込まれた。

協議事項として 2018 年度の事業報告、収支決算書及び監査報告、2020 年度事業方針（案）の３議案が審議され、それぞれ承認を得た。2020 年度事業方針については会長から、大会開催マニュアル作成・会員の増強・夢や希望に満ちた福祉を日本社会の文化に・広報に力を；ブックレット発行の仕組み作り・大規模災害に立ち向かおう；避難所や仮設住宅での暮らしの豊かさを考える等々が具体的に述べられた。

報告事項として第８期役員選挙に関するスケジュール、2019 年度の福祉文化実践学会賞の選考結果、前期事業活動報告・後期事業活動計画、補正予算書、前期決算、会員状況、2020 年度第 31 回全国大会の開催地は沖縄に決定したこと等が報告された。最後に会長から沖縄大会に向けて協力体制をとっていきたい旨、話があった。

会員情報

● 2019 年 12 月８日までに新規でご入会された方のお名前と所属ブロックをお知らせいたします。（敬称略）
〈個人会員〉小山 伸子（関東）
〈学生会員〉安河内 典子（中部・東海）
蓮見 大輝（関東）
● 2019 年 12 月８日現在
〈会員数〉個人会員 243 名　学生会員 14 名
団体会員 8

山折り

東海大会の概要をお届けします！

Ⅰ 記念講演

報告：中嶌 洋

「一流アスリートへのコーチング～可能性を引き出すために～」と題し、中京大学名誉教授の湯浅景元先生に70分間、ご講演いただきました。コーチング論では、①夢をもつ（文字にする）②夢を目標に置き換えられるように支援する、③目標達成を目指して自ら行動するよう支援する、という極意を教わり、一流アスリートのみならず、一般人にも通ずる秘訣を教えていただきました。また、トレーニングでは、「より弱く、より短く、より少なく」という基本を教えていただき、正しい知識と効率性がいかに重要かを気づかされました。勝負の世界では勝敗だけに拘りがちですが、要因分析や世界への情報発信など、より大切なものがあることを教えていただきました。いつまでもお聞きしたい有意義な講義でした。

Ⅱ シンポジウム

報告：企画委員会 島田 治子

3人の現場実践者が登壇し、まずは活動事例を報告。その中から示唆に富んだ言葉を取り上げてみます。

若者と高齢者が「ご近所カルタ」を共同製作・使用するなど、多様な仕掛けで「ご近所福祉」を実現している平田厚さんは「日々の会話を大切にし、“おすそ分け”の気持ちを持つことで地域の支え合いが可能になる」と説明。地域の居場所作りを目指して「つばめ地域食堂」を開いている稲田泰紀さんは「経済的貧困に目が向きがちだが、社会的な繋がりの貧困こそ問題」と指摘。障害者のマラソン伴走ボランティアを27年間続けている佐伯典彦さんは「人間の生活の質＝身体的・精神的能力 × 繋がり・関係性」という万人に通用する方程式を示しながら解説しました。

各シンポジストの話に共通していたのは「人との繋がり」ということ。そこで人間関係を円滑に進め、長続きさせるためのコツを聞きました。それぞれから出てきた「お互いに支え合う気持ち・関係を作る」「助ける・助けられる関係を作る」「期待し、期待される関係を作る」という言葉に共通するのは、対等な関係を作るということ。それが福祉の原点のひとつであり、その上に福祉文化を築くべきだということがはっきりしました。

Ⅰ 交流分科会 企画①

報告：渡邊 豊

福祉文化と子ども食堂（居場所と福祉文化）

子ども食堂や、居場所としての高齢者サロン、オレンジカフェ（認知症カフェ）などの多様な取組みについて、全国各地から参加した福祉文化の実践者、研究者が分科会で集い、発表し合い交流し合い、明日からの実践、研究のための学び合いの場とすることを目的に開催しました。

北は茨城、南は大阪から8名の参加がありました。稲田泰紀さんからの「つばめ地域食堂」の話題提供の後、参加者から実に多様な取組みの紹介、そして自由に楽しく意見交換が繰り広げられました。この交流分科会のテーマは、今後、学会の「子ども食堂を考える会」で研究を重ね、来年の沖縄大会でも企画されることを希望します。

Ⅱ 交流分科会 企画②

報告：山北 典子

こどもソーシャルワークセンターの活動から見えてくるもの

福祉文化 実践と理論の融合

登壇者の幸重忠孝氏は、滋賀県大津市で、「特定非営利法人こどもソーシャルワークセンター」を主宰し、福祉的課題を多く抱える子どもや家庭の支援を行ってきた。その多様な活動の実際を語ってもらうことによって、現代の子どもをめぐる諸問題について考察する時間となった。同センターを利用し、今後は支援者として活動するであろう若者2人からも、貴重な生の声を聴くことができた。

たくさん話題提供いただいたが、時間的制約もあり、参加者からの質問や意見を十分に拾い上げることができず、情報交換に至らなかったことは反省点であったが、地域での子どもを取り巻く現状を知り、それぞれに新たな学びを得る機会となった。

Ⅲ 交流分科会 企画③

報告：滝澤 幸一

企業と地域との共生と福祉文化

「企業と地域との共生と福祉文化」というテーマで、今大会事務局長の山下一郎氏のコーディネートのもと、八事山興正寺のご僧侶、桝田英伸氏とともにパネリストとして参加しました。（株）豊田マネージメント研究所の山下一郎氏がCSR活動の一環として興正寺の5の日の縁日に行っている、主に高齢者を対象とした音楽アクティビティの様子をスライドで紹介しつつ、（株）豊田マネージメント研究所、興正寺、そして弊社の関係性をもとに、企業を含めた福祉活動のあり方についてご参加の皆さんと意見交換を行いました。私たちの具体的な活動の様子から、ご参加の皆さんには何かを学んでいただけたのではと思います。

Ⅳ 交流分科会 企画④

報告：タナカアリフミ

ボイスとカラダで奏でるコミュニケーション・アートの交流ワーク

身体で語る、みんなで創る

参加者数＝18名〈内男性9名、女性9名〉

松原徹氏によるヴォイス・アクティビティでは、発声と身体の関わりを絶妙なユーモアで包みながら面白くわかりやすく解説。誤嚥を予防する発声法など老化に伴う身体機能劣化に対応する発生訓練法を紹介。

安河内氏は、陽性のバイタリティに溢れたテンポ感で運動療法を紹介。当日参加者が使用していた紐つきネームプレートを使い、上半身のストレッチに転化させるなど機転の利いた展開をみせる。

タナカアリフミ&すう氏は、立位&座位によるペアダンスを披露。その後、8カウントの1小節を2人1組で、立位／座位に役割分担して踊っていただく。三者三様のからだに対するアプローチ法をコンパクトな時間ながら提供。会場は参加者の笑顔と躍動感に包まれた。

Ⅴ 交流分科会 企画⑤

報告：中嶌 洋

福祉文化研究と査読

交流分科会⑤では、機関誌『福祉文化研究』の30年間の歩みを、データと記述から振り返り、続けて、研究倫理と個人情報を巡る現状を説明しました。その後、フロアの参加者と編集委員・研究倫理委員とでディスカッションを行いました。ここでは、投稿本数の増加、投稿締切期日、投稿原稿の文字数の適否、投稿料の有無、大学院生への配慮、査読体制の強化、特集記事のあり方などについて活発に議論しました。異分野から捉えた新しい視点や若い感性による斬新な発想が目につきました。魅力ある学会として存続するためには魅力ある学会誌のあり方の検討が欠かせません。さらには、優れた原著論文も求められます。編集委員会・研究倫理委員会は今後ともこれらの課題に向き合って努力していきたいと思います。

Ⅰ ワークショップ

報告：山下 一郎

子どもの創作絵本と夢の世界へようこそ！

絵本の制作を、紙を折ったりのり付けしたりして、製本までを体験してもらうことのできるワークショップ。何だかとても心が豊かにほっこりとした時空間。参加者の方たちの取り組む様子を見ているだけでも自然と“ほほえみ”がこぼれる。みなさんも思わず『わぁ～素敵ね』と会話が弾む。『この色合いがいいんじゃない』など…会話から対話そして居場所へと、素晴らしいコミュニティが生まれていた。30分ほどの制作時間だが、この1冊の絵本づくりを通して「明日へつなぐ豊かな文化」を感じずにはいられない。ハードカバーになった自作の絵本を開くと、そこには作者の方の“温かな心”がいっぱい綴られている。「夢の世界へようこそ！福祉さん」そんな言葉が聞こえてきます。

Ⅰ 現場セミナー1

報告：大島 直也

コース「興正寺ツアー」

大会の現場セミナー1では興正寺ツアーと称し、阿息感と呼ばれる瞑想法を興正寺の西山僧侶、指ヨガを西川、お灸法を大島からお話しさせていただき、福祉現場で日々活動される皆様にセルフケアについてお話ししました。興正寺の美しい景観により、参加者様の健康感を少しでも高められましたら意義ある時間だったと思います。

谷折り

谷折り